



共 育

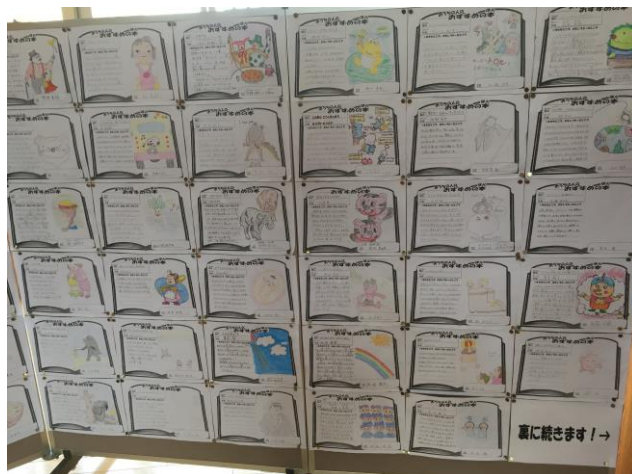
暑い日が続いた夏休みでしたが、最近では、朝晩、秋の気配が感じられるようになってきました。

9月8日も悪天候に伴い、安全な下校のためのメールを配信させていただきました。お陰様で大きな被害もなく終わりました。今後もこうした緊急の事態やお知らせの確認などのためにメールによる情報提供を行うことも多いかと思えます。ご家庭と学校が随時情報を共有できるメールの登録にご理解とご協力をお願いします。

さて、夏休みの間、学校からの様々なお願いにもご協力いただき、8月24日から3日間の補充学習では、ほとんどの児童が夏休みの宿題を計画的に済ませ提出することができました。ありがとうございました。

また、昨年度から引き続き取り組んでいる活動に『お家の人のおすすめの本』があります。今年もお願いしましたところ、お家の方からおすすめの本の紹介がたくさん届きました。

本号ではその中の一部をご紹介します。

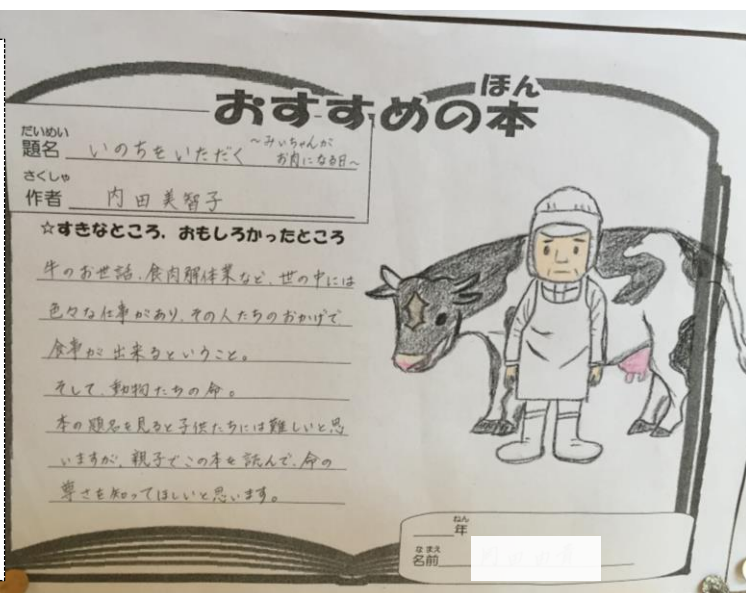


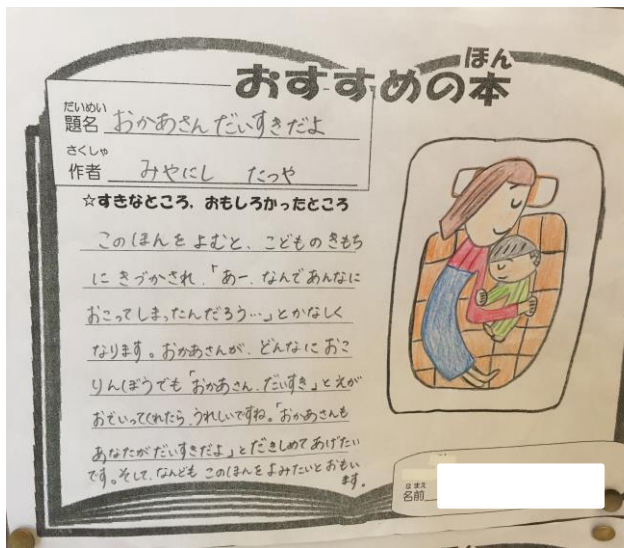
お家の人のコメント

牛のお世話、食肉解体業など、世の中にはいろいろな仕事があり、その人たちのおかげで食事ができるとのこと。

そして、動物たちの命。

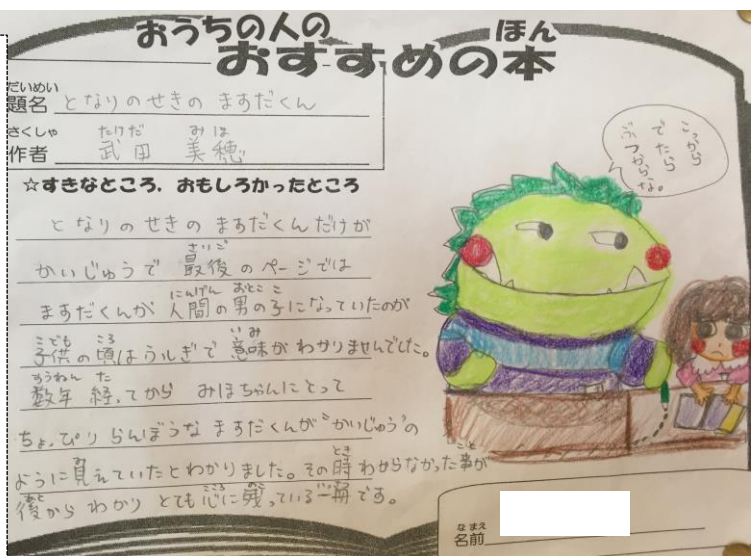
本の題名を見ると子どもたちには難しいと思いますが、親子でこの本を読んで、命の尊さを知ってほしいと思います。





このほんをよむと、こどものきもちにきづかされ「あー、なんであんなにおこってしまったんだろう…。」とかなしくなります。おかあさんがどんなにおこりんぼうでも「おかあさん、だいすき」とえがおでいってくれたら、うれしいですね。「おかあさんもあなたがだいすきだよ。」とだきしめてあげたいです。そして、なんどもこの本を読みたいと思います。

となりのせきのますだくんだけがかいじゅうで、最後のページではますだくんが人間の男の子になっていたのが子どもの頃はふしぎで意味がわかりませんでした。数年たってから、みほちゃんにとってちよっぴりらんぼうなますだくんが“かいじゅう”のように見えていたとわかりました。その時わからなかったことが後からわかりとても心に残っている1冊です。



いい本に出会うことは、 いい人に出会うことに似ている。

読書は、想像力や考える習慣を身につけ、豊かな感性や情操、思いやりの心をはぐくむことができます。ですから、テレビやマンガが好きな子にも、本を読む時間をもつように家庭で習慣づけたいものです。

そのためにも、食事の時間のように「読書の時間」を設ける、親子で図書館に行く、親も一緒に本を読むなど工夫し、子どもが読書の楽しさと出会えるきっかけをつくりましょう。

また、読書を通じて子どもが感じたり考えたりしたことに耳を傾け、話し合うなど、親子の会話を増やし深める契機として読書を活用することも大切です。

感動する本との出会いを大切に。

(文部科学省「新家庭教育手帳」より)